

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 宮田 剛志	(学部) 地域政策学部
1 重要事項 ○研究成果 (1) 科学研究費補助金 基盤研究 B 研究分担者 ①「畜産経営におけるリスクー養豚経営に焦点をあてて」日本農業経済学会『農業経済研究 我が国が直面する食料のリスクと日本農業の課題：現代日本農業のベースラインⅡ－2012 年度大会討論会報告－』2012 年 9 月，第 84 巻第 2 号，pp.112-128, pp.133-144, pp.147-148 (http://www.aesjapan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2012/10/JRE_Vol84No2toc.pdf)。 中長期的なタイムスパンで日本農業の将来展望を描いた 2011 (平成 23) 年度の大会テーマ「現代日本農業のベースラインを踏襲し、「日本の食料と農業に関わるリスク」をキーワードとしその第 2 弾である「我が国が直面する食料のリスクと日本農業の課題－現代日本農業のベースラインⅡ－」を大会テーマとしたシンポジウムの第 4 報告 (http://www.aesjapan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2011/12/dd13cb6f6090ab622d12fc2470ae5cd51.pdf : 招待報告) を担当し、その報告内容を論文化した。また、その際の総合討論の内容や拙著の書評も掲載されている。日本農業経済学会は、農業経済学分野最大の会員数 1,600 余名。また、他のシンポジウム報告者 3 名は、基盤研究 S 等 (平成 24 年度より学会長に就任、京都大学教授)、基盤研究 B 等 (九州大学教授) のそれぞれの代表者と、農林水産省農林水産政策研究所の研究員 (政策研究調整官) である。報告者は、当時、専任講師。 ②西川邦夫・宮田剛志「採卵鶏部門における家族経営の成長と安定－(株)地黄卵の取組－」日本農業経営学会『農業経営研究』(論文投稿中) 2011 年度日本農業経営学会の個別報告 (東京大学・社会科学研究所/日本学術振興会特別研究員との連名報告) の内容を論文化し、現在、投稿中である。個別報告・論文の内容は、(独) 農畜産業振興機構『2011 (平成 23) 年度 畜産関係学術研究委託調査報告書』(研究代表者：宮田剛志、共同研究者 2 名) に追加調査等を加えたものである。 (2) 科学研究費補助金 基盤研究 C 研究代表者 ①小山頭子・宮田剛志「中山間地域における集落営農の運営管理と経営継承－協業経営型農事組合法人に焦点をあてて－」日本農業経営学会『農業経営研究』2012 年 6 月，第 50 巻第 1 号，pp.35-40。 2011 年度日本農業経営学会の個別報告 (東京大学・大学院農学生命科学研究科・修士課程 2 年生との連名報告) の内容を論文化した。 ②万木孝雄・宮田剛志「農業者戸別所得補償制度による飼料用米生産の現況と課題－秋田県 JA かつのを事例として－」 2013 年度日本農業経済学会の個別報告 (3 月 30 日、東京大学・准教授・農学生命科学研究科との連名報告) を行い、現在、論文投稿中である。また、この個別報告・論文投稿は (公) 旭硝子財団からの研究助成も受けている。	

(<http://www.aesjapan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2013/02/6499ed47c9a8bf800b443c1da0f23cff2.pdf>)

(<http://www.af-info.or.jp/subsidy/awardees.html>)

(3) 依頼原稿 (専門誌)

農業経済学分野の研究対象と共通する領域をカバーする専門誌からの原稿依頼。研究成果に関する考え方に関しては、日本学術会議農学基礎委員会農業経済学分科会参照。

(<http://www.aesjapan.or.jp/wp/wp-content/uploads/2013/04/765aa9d3ec69104766aa8f77aa18b8b7.pdf>)

①「活発な集荷と販売を進める地方卸売市場の戦略－(株)群馬県食肉卸売市場－」『農業と経済』 2012 年 12 月, 第 78 巻 第 12 号, pp.92-100 (<http://www.showado-kyoto.jp/book/b105986.html>)。

②「家族経営の企業的展開と収益性－採卵鶏、乳用種去勢牛肥育経営に焦点をあてて－」(独) 農畜産業振興機構『畜産の情報』 2013 年 2 月号, pp.110-121。

依頼原稿の内容は、(独) 農畜産業振興機構『2011 (平成 23) 年度 畜産関係学術研究委託調査報告書』(研究代表者: 宮田剛志、共同研究者 2 名) に加筆・修正し、生産者の方向けに要訳したものである。

(http://www.alic.go.jp/live_top/sys/list.asp?order=TIME)

(<http://lin.alic.go.jp/alic/month/domefore/2013/feb/spe-03.htm>)

○学会活動

(1) 日本農業経営学会 常任編集委員 (～平成 24 年 9 月)

学会誌賞第 1・2 次選考委員 (～平成 24 年 9 月)

(2) 政治経済学・経済史学会編集委員 (～平成 26 年 10 月)

(<http://seikeisi.ssoj.info/committee.htm>)

平成 24 年度、論文査読・審査本数 10 本以上。

○社会活動

(1) 食肉の需給予測に係る共同調査実施者(独) 農畜産業振興機構 (～平成 26 年 3 月)

(2) 大規模肉用牛経営動向調査 実態調査委員 (株)工業市場研究所 (～平成 25 年 3 月)
『平成 24 年度 大規模肉用牛経営動向調査報告書』 pp.59-66。

○教育

演習 I

研究室の学部 3 年生 9 名 (一部、西野寿章教授研究室の学部 3 年生と共同調査。9 月のみ。西野研究室は約 100 戸以上、実態調査を行う) と群馬県下仁田町馬山地区の約 30 戸の実態 (農家) 調査を平成 24 年 9 月、11 月に行うことで、「下仁田ねぎの担い手の現段階と農地利用の変化－群馬県下仁田町馬山地区の実態分析より－」を農業問題研究学会『農業問題研究』調査研究 Survey research に 2013 年 3 月に投稿を行った (研究室の学部 3 年生 9 名全員の連名にて)

2 その他の事項（進捗状況のもの）

○著書

（財）農政調査委員会『日本の農業』平成 25 年度出版予定。

佐伯・宮田（2010）、佐伯・宮田（2011）、小山・宮田（2012）等の研究成果に加筆・修正、追加調査等を行うことで著書として出版する予定である。

○書評（依頼）

谷口信和・梅本雅・千田雅之・李侖美『水田活用新時代』農文協，2010 年，pp.1-347，の書評（日本農業経営学会『農業経営研究』）を行う（平成 25 年 5 月連休明け脱稿予定）。

○その他

研究プロジェクト進行中、新規研究プロジェクトの立ち上げ等、その他。

以上です。